

平成30年度 学校評価表

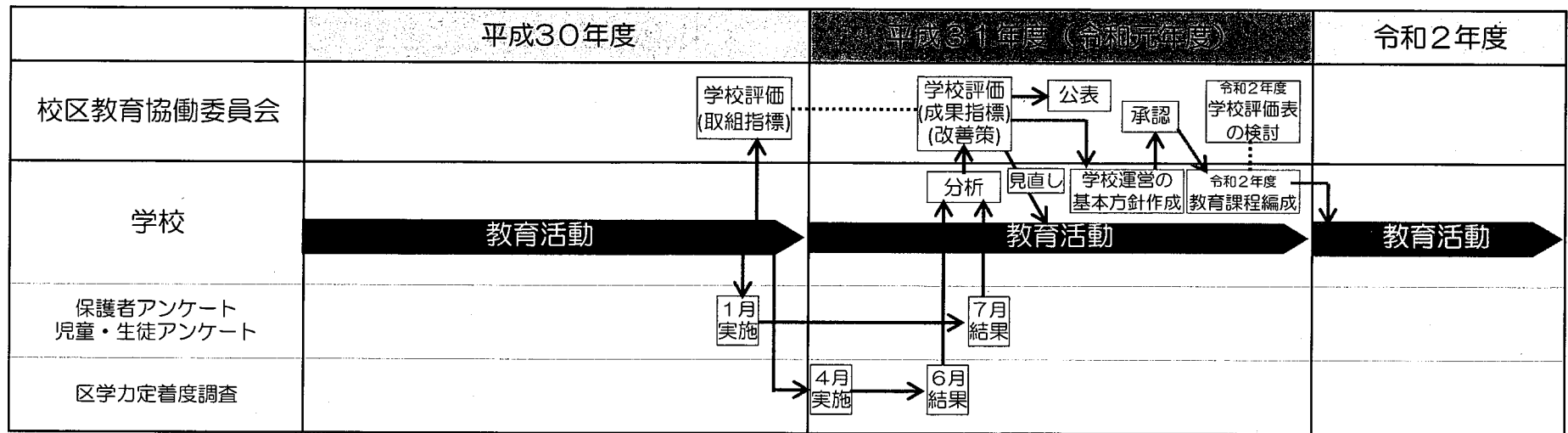
品川区立上神明小学校 校長 松崎 行雄
 上神明小学校校区教育協働委員会 委員長 下田 好行

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成30年3月30日教育長決定要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成30年度の学校評価が平成31年度（令和元年度）および令和2年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目1 (学力に関すること)

重点目標		○義務教育9年間を通して、自学自習できる学習力と学力を身に付け、活用できる力を育てる。 【基礎学力の定着】学力調査結果を分析し、基礎定着型授業を行う。また、上神タイム、補習指導、漢字検定、辞書引き等の取組で成果を上げる。 【学習規律の徹底】学習スタンダードをもとにして、正しく学ぶ態度を身に付けさせる。 【家庭学習の充実】家庭学習カード、宿題皆勤賞、家庭学習週間等の取組を通して、家庭学習の習慣を育てる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
① 基礎学力と学習達成感	<p>・区学力定着度調査(4月実施)において、2～6学年で全教科とも学年平均正答率が目標値以上になる。</p> <p>・校内漢字検定において、学級の7割以上の児童を第1回目で合格させる。不合格の児童も追試を実施し全員合格させる。</p>	<p>○調査において「標準スコア」以上になった教科 2年…なし、3年…国語・算数、4年…社会・算数・理科 5年…なし、6年…なし</p> <p>○漢字検定(11/28実施)第1回目合格率 2年…93.8%、3年…82.6%、4年…53.8% 5年…71.4%、6年…100%、ほほえみ…71.4%</p>	C	<p>【課題】 ○引き続き、学力の向上は本校の大きな課題である。特に、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させること、学年による習熟の程度の差を縮めることが必要である。</p>
	<p>基礎定着型授業で「できる喜び」を味わわせる。上神タイム、補習、漢字検定などの取組を確実に実施し、確かな基礎学力を形成する。</p>	<p>○「まず、学習習慣を定着させる。」ということは少しずつできてきている。 ○十分に補習できた単元では、10点程度得点も上がった。(算数技能、知識・理解) ○漢字検定へのモチベーションは高い。維持したい。 ○類題に取り組む、反復するという方法で定着を目指している。 ○補習(「未来塾」を含む)では、児童のつまずきに対応した指導・支援ができた。 ▼「上神タイム」「補習」「未来塾」をもっと運動させ、戦略的に取り組みたい。 ▼導入時における前時の振り返り、終末における習得内容の確認を確実に行いたい。 ▼補習等によって得た成果を児童に確実に自覚させることが必要。</p>	B	<p>【改善策】 ○毎時間の授業において、ねらいの明確化、振り返りの充実によって、児童が習得した内容を十分に意識し、定着させられるようにする。 ○取組の意味と内容が児童・保護者に定着してきた「品川地域未来塾」を活用し、特に学力低位の児童が反復して学習に取り組み、学ぶ意欲を育む機会を保障する。</p>
	<p>主体的・対話的で深い学びをめざし、教師も児童も達成感や学ぶ喜びが味わえるような学習過程の工夫をする。</p>	<p>○ペアやグループでの学習を意図的に設定している。 ○自分の考えを明確にして自力解決させるようにした。 ○児童の実態を見とり、それを踏まえて課題設定している。 ○児童の実態からして、まず発表の仕方などのモデルを示している。 ○活動による切り替え(読む、書く、発表する等)を明確にした。 ▼校内研究とより深く関連付けて、全校で計画的に取り組んでいく必要がある。</p>	B	<p>○研究全体会・分科会の形式と内容を工夫することにより、アセスメントを活用した授業改善を目指す校内研究を充実させ、全校で一致した実践ができるようにする。</p>
② 家庭学習	<p>i-Check(4月実施)において、2、3年では「家でほぼ毎日勉強する」が60%以上。4～6年では「平日の家庭学習時間が1時間以上」の児童が50%以上。</p>	<p>○「家でほぼ毎日勉強する」 2年…56.3%、3年…100%</p> <p>○「平日の家庭学習時間が1時間以上」 4年…15.4%、5年…69.5%、6年…47.0%</p>	C	<p>【課題】 ○学習規律の定着とともに、家庭学習の習慣化も一定の成果は見られる。さらなる定着と学習内容の質の向上が課題である。</p>
	<p>家庭学習カード、家庭学習週間、宿題皆勤賞等の取組を通して、家庭学習の習慣づくりをする。</p>	<p>○各取組は、児童の意欲付け、保護者の啓発にはなっていない。 ▼学年による取り組み方の差が大きい。宿題の出し方、忘れた時の対応にさらに工夫が必要。家庭学習をすると、授業での理解が深まるということを浸透させたい。 ▼取組の結果分析、次への活用ができていない。 ▼現状のままでは、家庭の協力はなかなか得にくい。 ※成果指標が「宿題提出率」や「自主学習への取組」等であってもよい。 ※家庭学習はやってあたりまえ。取組指標を変えていきたい。</p>	B	<p>【改善策】 ○宿題を忘れた児童は、その日のうちに学校で取り組ませることを徹底し、意識を高める。 ○家庭学習の内容について、児童への指導を充実させるとともに、保護者会や個人面談等を通して保護者を啓発する。</p>

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 (人間性や社会性に関すること)

重点目標		○社会の構成員としての役割を遂行できる資質・能力を育成し、自他ともに尊重し合える豊かな心を育む。 【市民科学習の充実】生活に根差した実学としての市民科学習で実践的な能力を高める。 【基本的な生活習慣】学校のきまりを順守させ、挨拶を奨励し、皆で生活するために必要な公共性を育てる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
① 市民科	i-Check(4月実施)において全学年とも、「学校やクラスのきまりを守っている」に対する肯定回答が90%以上。また「将来の夢がある」に対する肯定回答が80%以上。	○「学校やクラスのきまりを守っている」肯定値 2年…100%、3年…100%、4年…100%、5年…80.6%、6年…88.2% ○「将来の夢がある」肯定値 2年…37.5%、3年…95.8%、4年…92.3%、5年…80.6%、6年…82.4%	B	【課題】 ○市民科学習の各ステップにおいて指導方法を工夫し、生活場面によっては自己管理や人間関係形成において望ましい行動も見られるようにはなっているが、日常化は十分ではない。
	市民科の単元学習を計画的、効果的に実施し、特に自己管理や人間関係形成における実践力を高める。また、学習の成果を日常生活に生かせるように継続的に想起させる。	○6年生は、最高学年としての誇りが定着してきているとも思われる。 ○「目指すべきことは何か」に対する理解は深まってきた。 ○道徳の教科書、副読本を活用して指導している。 ○他教科や生活指導とも関連付けて指導している。 ○行動の振り返りを大切にして、日常的に意識できるようにした。 ▼学習をもとにした行動目標は立てられるが、実践での達成は不十分。 ▼学習中には実践できていることが多いが、日常生活に十分に生かすことにはまだ課題が残る。	B	【改善策】 ○改善した市民科年間指導計画に沿って、確実に授業を実施していく。さらに、各教科・領域、学校行事、生活指導等と関連付けたカリキュラム・マネジメントを推進し、日常化を図る。
② 基本的な生活習慣	i-Check(4月実施)において、全学年とも「生活習慣」の肯定値が80以上。	○「生活習慣」肯定値 2年…75.4%、3年…82.9%、4年…77.7%、5年…78.2%、6年…72.1%	B	【課題】 ○望ましい生活習慣を付け、生活規律や学習規律を徹底させようという共通理解を深化させることができた。教員一人一人の基準に差が出ないようにし、全校で一致した取組を粘り強く継続することが課題である。
	「上神明小の約束」「遊びのきまり」「授業規律」「清掃スタンダード」をどの学級でも守って、安全に気を付け、思いやりのある生活ができるように、指導の一貫性を図る。	○よく守れるようになってきた基本的なきまりもある。 ○成果はまだ十分ではないが、全学級で取り組むことはできるようになった。 ○できなかったときに、課題を考えさせたり、やり直しをさせたりしている。 ▼学年によって取り組み方にまだ差がある。何ができているか、できていないかを明確にして、重点指導項目を決め、「必ず守る」意識を感じさせるべき。 ▼まず、落ち着いて学習できる教室環境の整備が必要。 ▼大人からの声かけに対して、素直に従える子とそうでない子の差が明確になってきた。素直に認められるよう、粘り強い指導が必要。家庭との連携も重要。 ▼「清掃スタンダード」が特に徹底されていない。委員会活動を利用するなどして、児童の主体的な取組をしていくことも必要。きまりの見直しをしていくという方法もある。 ▼年度始め、学期始めなどに繰り返し指導する必要がある。	C	【改善策】 ○「上神スタンダード」の内容を精選し、児童・保護者にとって分かりやすいものにしていくとともに、全教員で共通の基準をもてるようにする。 ○基本的な生活習慣の確立には、保護者・地域・学校の連携が不可欠であることを、保護者会、学校だより、校区教育協働委員会等の様々な機会をとらえて発信していく。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 (体力・健康に関すること)

重点目標

○自ら健康づくりをする子どもの育成を経営基盤にして、「知力」「人力」「体力」のバランスの取れた児童を育てる。
 【体力向上】体感と運動感覚を育てるコーディネーション運動、縄跳週間、冬季マラソン、ドッジボールなどを全校で取り組み体力向上を図る。
 【健康教育】生活習慣アンケートを活用し生活習慣の改善を図る。口腔内の健康を重点とする。
 【安全教育】地域防災訓練、不審者対応訓練、校内のD級ポンプ訓練を通して、職員も地域防災活動に参画する。また、避難訓練や交通安全指導を通して、自分の命を自分で守る態度を育てる。

評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
① 体力向上	スポーツテストにおいて、全学年男女とも半数以上の種目で全国平均を上回る。	○全国平均を上回った種目数(全8種目) 1年…男子2・女子2、2年…男子2・女子1、3年男子1・女子4、4年…男子1・女子2、5年…男子4・女子3、6年男子1・女子0	C	【課題】 ○引き続き、体力の向上は本校の大きな課題である。運動の日常化を図る必要がある。
	年間を通してコーディネーション運動に取り組む。ドッジボール、縄跳、マラソンは、期間限定で全校で取り組み、各自のめあての達成と学級の連帯感の醸成にも役立つ。	○年度当初に研修を行い、コーディネーショントレーニングについての共通理解はできた。毎時間ではなくても、準備運動などで実施できた。 ○テクニカルアドバイザーを活用することができた。 ▼取り組み方に学級で差がある。系統性を意識した取組も必要 ▼取り組んだ成果を子どもに実感させる必要がある。 ※体育学習そのものをどうするべきかの検討、取組指標も必要。	B	【改善策】 ○体育部を中心として、効果的な指導方法の浸透や環境整備を推進し、日常の体育学習における授業改善を図る。 ○休み時間の使い方や運動関連の取組に関して、より一層の共通理解を図り、児童の運動経験と運動量の確保ができるようにする。
② 健康教育	う歯率10%以下、治療率100%をめざす。1日3回歯磨きする児童を50%以上にする。ハンカチ毎日持参率80%以上にする。保護者への啓発も図る。	○う歯率…8%(男子12%・女子3%) ○治療率…60% ○1日3回歯磨き…ほぼ50% ○ハンカチ持参率…ほぼ80%	B	【課題】 ○健康管理や保健指導を充実させ、一定の成果は認められるが、健康・安全に対する児童の意識向上は十分ではない。
	歯科検診前に歯科医や養護教諭による指導を徹底する。歯磨きや姿勢等の生活習慣向上については、保健委員会からも呼びかけさせる。	○歯みがきをきちんとしている学級は多い。時間を計りながら取り組むという工夫も見られる。 ○養護教諭による指導は効果的だった。(姿勢など) ○保健給食委員会の発表などは、生活習慣向上につながった。 ▼1か月ごとにめあてをチェックしている。大人の意識も高めたい。 ※う歯率は低くなっている。歯肉炎・歯周病予防に関する指標を設定したい。	B	【改善策】 ○これまでの取組を粘り強く継続するとともに、体育の保健学習とも関連付けて、健康・安全に対する児童の意識を高めていく。 ○PTAとも連携し、学校保健委員会への出席者を増やし、保護者の啓発を推進する。
③ 安全教育	地域の防災訓練に全職員の80%が参加する。児童の自転車用ヘルメット常時着用率を70%にする。交通事故をゼロにする。	○防災訓練参加率…95.0% ○ヘルメット着用率第2回調査結果…81.1% ○交通事故…0	A	【課題】 ○安全教育を充実させることができた。自他の安全を守るために必要な行動を理解させたり、自転車用ヘルメット着用率をさらに上げたりすることが今後の課題である。
	年間計画に従って安全指導と安全点検を実施する。警察やPTAと連携してセーフティ教室や自転車安全教室を実施する。	○組織的・計画的に取り組むことができた。地域の方の協力も得られた。 ○ヘルメット着用に関する掲示は、意識向上に効果的であった。 ○安全点検・小破修繕が確実にできているので、事故やけがなく過ごせている。 ○副読本を活用して、計画的に安全指導を行うことができた。 ▼学級ごとのヘルメット着用率を学校だよりに掲載するなど、保護者を啓発していく工夫も必要。	A	【改善策】 ○保護者との連携をさらに強化し、ヘルメットの常時着用に対する理解を促す。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 (いじめの防止の取組に関すること)

重点目標				
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
① いじめ根絶	i-Check(4月実施)において、全学年とも、「いじめのサイン」の肯定値が全国値以上。	○「いじめのサイン」肯定値(全国値との比較) 2年…+4.9%、3年…+9.2%、4年…+0.5%、 5年…-4.8%、6年…-11.9%	B	【課題】 ○十分な情報共有のもと、いじめ根絶に向けた組織的な対応ができた。さらに望ましい児童相互の人間関係構築が課題である。
	特支夕会、児童理解研修会で各学級の実情や要配慮児童への対応を共通理解し、全体的、組織的に対応する。教職員の人権感覚も磨くよう心掛ける。	○全体での情報共有がスピードアップし、組織的・計画的な対応ができています。 ○委員会後の回覧も活用し、共通理解が図られている。 ○情報共有・共通理解ができていて、どのような支援が必要か明確になった。 ○「人権教育プログラム」を活用した校長の指導で、常に人権感覚について意識することができている。 ○スクールカウンセラーの活用がすずんだ。 ▼特別支援、教育相談、生活指導の関連を深く理解するためにも、校内研修をさらに充実させたい。	A	【改善策】 ○市民科学習と生活指導を関連付け、相手意識をさらに高め、配慮のある言動が日常生活の中で自然にできるようにする。 ○児童の特性に応じて、ソーシャルスキルトレーニングを実施するなど、コミュニケーション能力を高めるための支援を積極的に行う。
② 自他の尊重	i-Check(4月実施)において、「友達から頑張ったね、すごいねとほめられたことがある」に対する肯定回答が全学年とも7割以上。	○「友達から頑張ったね、すごいねとほめられたことがある」肯定値 2年…56.3%、3年…75.0%、4年…84.6%、 5年…86.1%、6年…76.5%	B	【課題】 ○なかよし班活動、保小交流事業は、児童に発達段階に応じた自覚を促し、個性を発揮させるための有効な機会となった。自己肯定感をさらに高めることが課題である。
	全学年とも富士見台保育園との交流活動を計画的に実施する。なかよし班活動は、児童の主体性を育てるために高学年生のリーダーシップを育てるよう支援する。また、取り組みを通して個性の尊重を図る。	○担当の教員を中心として計画的に進められている。高学年がリーダーシップを発揮する場として有効。 ○園児との交流は、工事やインフルエンザで実施できなかった取組もあるが、実施した学年はどの学年も主体的に活動できていた。 ○なかよし班活動では、児童の主体性を伸ばすためにも、極力介入は控え、見守りと安全管理を重視している。 ○発達段階に合った課題を示すことにより、充実した取組になった。 ▼園児との交流は、各取組をさらに意味のあるものにするためにも、児童の何を高めたいのか、ねらいをさらに明確にしたい。 ▼なかよし班活動では、さらに工夫する余地がある。	A	【改善策】 ○各活動後の振り返りを充実させるとともに、自他の評価を確実にフィードバックすることで自己肯定感を育む。 ○なかよし班活動においては、特に中学年の役割を明確にし、さらに活動を充実させていく。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目 5 (特色ある教育活動)

重点目標		○特色ある教育活動を展開して、豊かな情操を育て、帰属意識や愛校心、地域愛を育む。 【コミュニティースクール】校区教育協働委員会において教育活動の評価や経営方針の承認を行う。学校支援地域本部を中心にして地域との連携を深めたり、地域人材を活用したりして、豊かな教育環境を作り出す。 【個を大切にしたい教育】特別支援学級(設置2年目)や特別支援教室(拠点校)の教育活動の充実を図る。また、校内委員会の組織力を高めて、一人一人のニーズに応じた教育を推進し、自己有用感と思いやり心を育てる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
① コミュニティー・スクール	地域人材を活用した授業や行事を年間10回以上。ぶどう祭り(9月)の参加者が200人以上。	○地域人材を活用した授業や行事 「まちの人々に学ぶ授業」18回、オリンピック・パラリンピック教育2回、ドリームジョブ2回、伝統行事を学ぶ会1回、品川音頭1回、ふれあい給食1回、その他(町探検・学習ボランティア等)多数 ○ぶどう祭り参加者 およそ300人程度	A	【課題】 ○保護者・地域と連携した活動を充実させることができた。さらに人材を発掘して学校支援協力者を増やすこと、学校が積極的に地域に関わっていくことが課題である。
	コーディネーターを中心として、日常的に授業協力ボランティアを募り参画していただく。また、どろんこフェスタ、ぶどう祭り、PTAデイキャンプなどの特色あるイベントを保護者や地域と連携して実施する。地域行事には教職員も参加するようにする	○コーディネーターの尽力が素晴らしい。日々の学習活動が充実している。 ○学習支援ボランティアがさらに充実した。 ○保護者や地域との連携は深まっている。 ○祭礼や防災訓練など、地域の行事にも積極的に参加するようにしている。 ○保護者・地域・教員が連携できる上神明小の行事は、学校の特色、伝統として今後も大切にしていきたい。	A	【改善策】 ○学校支援協力者になり得る人材を募集・確保するシステムを構築し、品川地域未来塾指導員、スクール・サポート・スタッフ等に活用していく。 ○あいさつ運動で地域の方にも声をかけたり、教員の地域行事参加などを拡充したりして、地域との連携をさらに強化する。
② 個を大切にしたい教育	i-Check(4月実施)において、2～4年生では「クラスには思いやりのある優しい人がある」に対する肯定回答が80%以上。5、6年生では「クラス全員のいいところを言葉で言える」に対する肯定回答が80%以上。	○「クラスには思いやりのある優しい人がある」肯定値 2年…93.8%、3年…100%、4年…92.3% ○「クラス全員のいいところを言葉で言える」肯定値 5年…77.8%、6年…76.5%	B	【課題】 ○スクールカウンセラーの効果的な活用が図られるなど、個を大切にしたい教育が実践できている。専門的知見をさらに有効活用すること、特別支援教育校内委員会の機能を高めることが課題である。
	専門家、心理士、巡回相談員の助言を積極的に支援に活かす。	○貴重な助言を得られている。指導の参考になっている。 ▼専門的知見に基づく助言をもっと全体で情報共有していく必要がある。	B	【改善策】 ○心理士、巡回相談員等の活動記録は、管理職とコーディネーターだけでなく、各担任も必ず目を通すようにし、今後の指導の参考にする。また、積極的に助言を求めるようにする。
	対応の必要な児童、学級、保護者に対して、校内委員会で組織的に対策を検討して、全職員で共通理解をして対応する。	○校内委員会が機能し、組織的に対応がすすんでいる。穏やかな雰囲気のあるクラスが増えている感触はある。 ○「ふたば」の教員が学習支援に入るシステムも機能した。 ▼きめ細かい個への対応と同時に、全体(集団)を育てる教員の力も求められる。 ▼情報共有だけでなく、対策についての組織的検討ができるようにしたい。	A	○校内委員会の頻度、内容を改善し、より計画的・組織的な対応ができるようにする。

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成